

## 第 6 章 橋梁被害

## 6. 橋梁被害

本地震による橋梁被害は、軽微な RC 橋脚の損傷，支承の損傷，桁端部の損傷，背面盛土の沈下などは認められたものの，能登島に架かる中能登農道橋および能登島大橋が，点検および応急対策のために一時通行止めとなる程度の極めて限定的であった。

### 6.1 能登島大橋

本橋（昭和57年架設）は，七尾湾中央部に位置する能登島と本土を結ぶ3径間連続PCラーメン橋と前後の計18径間のPCT単純桁橋からなる全長1050mの海上橋である。文献1によると以下の被害が報告されている。図6.1に示す桁橋の橋脚（P6，7）とラーメン橋と単純橋の掛違い橋脚（P10），ラーメン橋の中間橋脚（P11）の計4基に比較的顕著な損傷がみられた。P6，P7では，基部コンクリートの剥落とひび割れ，鉄筋のはらみだし，内3本の破断とフーチングとの境界部直近で帯鉄筋1本の破断が確認された。P10では，中間段落とし部で曲げ，せん断ひびわれがみられ，橋軸直角方向地震動の影響によるものと判断される。調査の結果，損傷が大きいP7，P10も大きな残留変形等もなくモルタル等による断面補修とひび割れ注入により当面の供用に必要な耐荷力は確保できると考えられる。

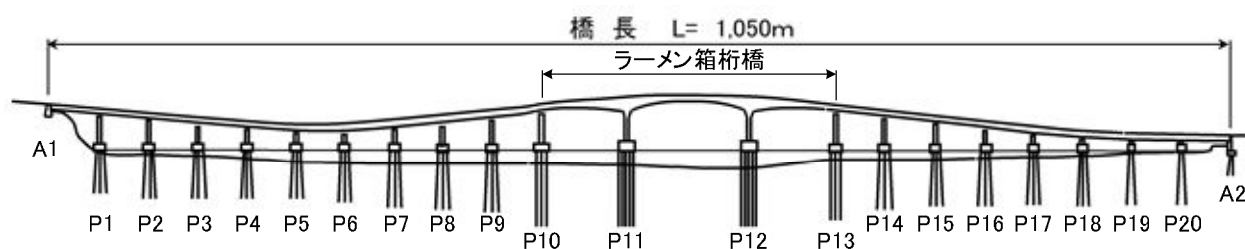


図 6.1-1 橋梁一般図



写真 6.1-1 橋梁概観



写真 6.1-2 橋脚基部ひび割れ

## 6.2 中能登農道橋

中能登農道橋は石川県中島町と七尾湾に浮かぶ能登島を結び 450m の PC3 径間連続斜張橋と 170m の PC2 径間連続箱桁橋が一体となった全長 620m の橋梁である。文献 2 によると以下の被害が報告されている。図 6.2 の概略図に示す。斜張橋と箱桁部の連結部では、鋼製高欄のスライス部分に約 10cm の痕跡が認められ、地震時橋軸方向に大きな移動が発生したことがわかる。しかしながら、大きな桁移動にも関わらず本体部および伸縮継手部の損傷は見られなかった。写真 6.4 に示すように、橋面上の路面照明灯が 2 箇所損傷していた。また、能登島側の A2 橋台の盛土部では地震力により亀裂が発生しており、応急対策として、防水のためのブルーシートが張られ、斜面側の一車線が交通規制されていた。

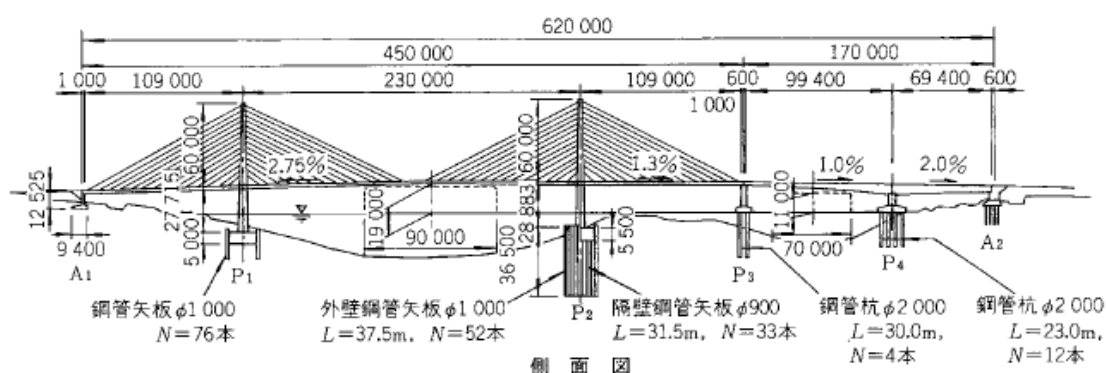


図 6.1-2 橋梁一般図



写真 6.1-3 橋梁概観



写真 6.1-4 照明柱の損傷

### 参考文献

- 1) 土木技術資料，平成19年能登半島地震緊急調査報告，pp.6-11, 2007.6 .
- 2) 飛田哲男，後藤浩之，豊岡亮洋，高橋良和ら，平成19年能登半島地震被害調査速報，自然災害科学 Vol.26-1, pp.69-78, 2007 .

(担当：幸左賢二，竹田周平)